

A.2.6 投資家が企業に期待すること

気候変動に関する機関投資家グループ（IIGCC : Institutional Investors Group on Climate Change）は、気候変動に関する欧州の投資家グループで、22 か国に 330 以上の会員があり、39 兆ユーロ以上の資産を運用しています。IIGCC が 2021 年 9 月に公開した「Building Resilience to a Changing Climate: Investor Expectations of Companies on Physical Climate Risks and Opportunities¹⁰（仮和名 変化する気候に対するレジリエンスの構築：物理的リスクと機会に関する企業への投資家の期待）」に示された、投資家が企業に対し、最低限期待すること（Minimum Expectations）を紹介します。

気候ガバナンスの枠組みの確立

- 本書に示された企業への期待に沿って、移行リスクに加え、物理的リスクと機会を考慮することを、取締役会レベルで約束する
- 物理的リスクと機会に対する取締役会の責任と説明責任を示し、取締役の専門知識と経験を報告する
- 財務諸表を含め、重要な物理的リスクと機会の開示を強化する

物理的リスクと機会の評価

- 物的資産の台帳を維持し、これらの資産の場所を開示する
- 評価したハザードとリスク評価にかけた期間を開示する。他のハザードをどのように、なぜ分析から除外したか開示する
- 間接的影響および長期的影響を評価するために使用した 2 種類以上の気候シナリオ、および使用した専門的知見を開示する
- 施設の立地起因する直接的な気候変動の影響への曝露、企業が曝される将来のリスクの種類、重大なリスクや特定された機会による財務上の影響の見積もりなどのシナリオ分析の結果を開示する
- これらの結果を、リスクと機会の管理に関連した戦略的ビジネスの意思決定にどのように統合しているかを開示する

気候レジリエンス構築のための戦略策定と実施

- 基準となるしきい値を含み企業がどのように重要性を定義しているかを開示する
- 気候物理的影響による重大なリスクを管理するために取るべき行動を開示する
- このアプローチにどのように資金を調達するかを開示する
- 適応策への投資および／または適応策の提供のために特定された機会を開示する

時系列での進捗状況を示す指標の特定と報告

投資家は、企業が以下の指標について報告し、それに対する進捗を示すことを期待している。

リスク評価指標

- 企業は、a)最近の異常気象による影響、b)気象変動による影響、c)気候変動による将来のリスク、のそれぞれに関する指標を開示しなければならない
- 企業は、最低限の将来を考慮した指標として、一般に認められているリスクの主要カテゴリーに基づき、物理的リスクに実質的にさらされている資産または事業活動の割合を定量化し、報告する必要がある

機会の評価指標

- 適応策や企業の気候レジリエンスの構築に関連する支出（CAPEX: Capital Expenditures（資本的支出）および OPEX: Operating Expenses（営業経費））
- 可能な限り EU タクソミー（持続可能な経済活動の分類基準）で定義された適応策への「実質的な貢献」を提供することで得られる収益

インパクト評価指標（定量的または定性的なもの）

- 労働力となる人々、地域社会、自然生態系にとっての気候レジリエンスのメリットを定量的または定性的に評価したもの

¹⁰ <https://www.iigcc.org/download/building-resilience-to-a-changing-climate-investor-expectations-of-companies-on-physical-climate-risks-and-opportunities/?wpdmdl=4902&refresh=6227354661cde1646736710>